

平成 30 年度事業計画書

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

1. 事業運営方針

近年、北海道の馬鈴しょは、作付面積の減少や作柄不良により減産傾向にあります。平成 29 年産作付面積は 51,200ha で、前年並の実績となりました。

しかしながら、用途別の作付比率は、推定で生食・加工用 60%、でん粉用 30%、その他 10%となっており、特にでん粉用の作付面積の減少が大きくなりました。

馬鈴しょの生育は、曇天・日照不足・台風の影響もあったものの、概ね順調に推移し、10a 当たり収量は 3,670kg (前年比 110%)、収穫量は 1,879,000 トン (前年比 110%) となっております。

一方、馬鈴しょでん粉生産量につきましては、原料処理数量は概ね 769,000 トン、馬鈴しょでん粉生産量は 178,600 トン (前年比 118%) の見込みですが、国が定める計画生産数量 240,000 トンに対しては大きく未達の状況にあります。

このため、馬鈴しょ及びでん粉の安定生産に向けた対策としては、品種改良、病虫害対策技術の開発を優先しております。

特にシストセンチュウ抵抗性で高収量を目標としたでん粉原料用専用品種の開発、でん粉の機能性に着目した品種開発、諸病虫害の効率的、高精度診断技術の開発などを取り進めて参ります。

でん粉の流通、販売面においては、道産でん粉の生産量が減少していることにより、一部ユーザーは原料調達を外国産へ代替するなど、安定供給に課題を残しています。

この様な情勢を踏まえ、馬鈴しょ及びでん粉の生産振興等、直面する課題を解決すべく、関係機関・関係団体と連携をとった事業運営に努めて参ります。

(注) 文中の計数は、農水省・中央会・ホクレン調べに基づく。

2. 具体的事業計画

(1) 研究助成事業

試験研究事業として馬鈴しょの安定生産を目的とした品種改良、病虫害対策に向けて、公募による助成事業として実施し、直面する課題解決に向けた事業展開を図ります。

ア. 試験研究事業

- (ア) 高でん粉品種の育成に向けたアンデス在来品種の利用
- (イ) 馬鈴しょの農業形質に関連した DNA マーカーの探索と有効性検証
- (ウ) 道央地域における馬鈴しょ育成系統の早期肥大性評価
- (エ) 馬鈴しょのレジスタントスターチ含量を高めるための品種選抜および加工技術開発
- (オ) 馬鈴しょ疫病圃場抵抗性系統の開発強化
- (カ) でん粉原料用馬鈴しょにおける低離水率・低リン系統の開発強化
- (キ) DNA マーカー選抜による馬鈴しょ耐病虫性系統の開発強化
- (ク) 早期肥大性に優れるでん粉原料用馬鈴しょ品種の開発強化
- (ケ) ジャガイモ Y ウイルス（塊茎えそ系統）に対する馬鈴しょ品種の感受性および塊茎えそ症状発生条件の解明
- (コ) ジャガイモシストセンチュウ類を対象とした多検体効率検査技術の開発
- (サ) 北海道の馬鈴しょ栽培圃場におけるアブラムシによる PVY 媒介実態の解明
- (シ) 健全馬鈴しょ生産のためのジャガイモ黒あし病菌の高精度診断法の開発と実証

(2) 普及啓発事業

道内馬鈴しょ及び馬鈴しょでん粉の安定的生産及び生産性向上に寄与するため、生産者、JA、道、市町村、澱粉工場、研究機関、大学などを対象とした講習会の実施等により、馬鈴しょの栽培技術・新品種開発・流通動向など各種情報に関する普及啓発を図ります。

- ア. 馬鈴しょ栽培講習会の開催
- イ. 各種試験成績集などの作成
- ウ. 「協会だより」の発行
- エ. ホームページの運営

(3) 需給調整事業

- ア. 馬鈴しょでん粉の需給動向の把握と、調整保管事業の発動可否を判断するため、平成30年産馬鈴しょ及び馬鈴しょでん粉の生産見込を立て、それに基づき、馬鈴しょでん粉の需給調整に関する調査検討を行います。
- イ. 馬鈴しょでん粉の供給量が前年需要量を大幅に上回り、需給に著しい不均衡が生じた場合、その需給を調整するために調整保管事業を行います。

3. 財務及び総務

日本経済の動向並びに国内外の金融情勢を的確に把握し、資産運用規程に基づき適正な運用管理に努めます。

また、公益法人の基準に則った効率的な事業運営を行い、経費の縮減にも努めてまいります。